

第3次福津市行財政改革大綱について パブリックコメント

まん延するコロナ下ではありますが、諸業務ご苦勞様です。

さて今回提示いただきました行財政改革大綱（素案）、今までになく分かり易く感謝申し上げます。

財政につきましては、市民が日常用いる用語に若干隔たりはありますが、折を見て用語の説明（生活常用用語との対比）を掲示いただき、また教育行政でも将来の担い手（子供たち）にも分かり易い用語で財政を解説するなどご尽力頂ければ幸いと願っています。

1、現状財政と財政の仕組みを分かり易く公開

(1) 歳入

市民には馴染まない言葉ですが、敢えて市民が使用する日常用語に置き換えますと収入となり、その収入は以下のように現すことができると思われれます。

■自主財源（収入1）

- ・給与収入：ほぼ定額的に得られる収入（市民税・固定資産税・都市計画税など）
- ・副業収入：収入は見込めるが変動があるもの（法人税・たばこ税など）
- ・パート収入：従事すると得られる収入（公共施設利用料金など）

■依存財源（収入2）

- ・厚生年金・企業年金・利子（特定事業交付金、国庫/県支出金など）
- ・借入収入：家の購入、修理・車両の購入ローンなど（地方債など）

市民家庭でも同じですが、■自主財源を基に毎月の生活を建てており、これだけで次項の支出（歳出）を補うことが出来れば安心して健全な生活を送ることが出来ます。

（自主財政率の向上）

(2) 歳出

市民生活用語でいう支出ですが、

■支出（歳出）

- ・定額支出1：日常的に必要なもの、食費/光熱費/通信費/小遣い
（給与/施設運営維持費など）
- ・支出2：必要に応じ支出されるもの、特別教育費/損害保険/旅行
（特定事業・建設費・用地購入費など）
- ・支出3：必要ではないが将来のために、預金
（基金など）
- ・返済支出：借入収入に対する支出、ローン返済
（地方債返済金など）

その他特別会計も有り、市民は事業にかかった総額費用は知ることが出来ますが、どの財源からの支出で行っているのかは想像の域で、簡単に財源内訳を表示することで市民の関心も高まると思われます。

これら財政（会計）の現状を市職員/部署（市民）は良く理解し、必要の是非を検討/庁内会議（市民公開）をもって、財政の適正運営に当たってほしいと願います。

2、行財政の実行と使途の運用について

5年後、10年後の健全な財政運営に向け検討する際には、過去の財政データを基に反省をもって行わなければなりません。それらを基に現行の財政運営が将来の財政に与える影響を推測、協議を繰り返し決定に至ると思われますが、この協議の際は他部署の管轄であっても市職員の皆様は当該部署の立場、市民の立場に立って意見を述べて頂き、主張だけを繰り返すのではなく、よく聞くことから始めてほしいと願います。

■学校建設

対象学童が増えれば施設は多くいる、少なくなれば縮小となりますが、一旦増やした施設の縮小の際には財源返還も起こり得ることもあり、新設規模は慎重にならざるを得ません。

財政においては、建設費60億だけを表現するのではなく、市民にも建設による財源負担割合（一般財源、基金、交付金、市債）を公表し、将来担うべき負担があることを理解いただく必要があります。

また学校建設計画にあっては、既存施設（EX中央公民館）を改築利用するなど、民間提案型も含め、どの方法が将来の財政負担を減らすことが出来るのか検討いただきたいと思っていますが、教育委員会教育部だけでこの検討出来るとは思えず、財政面からの検討は民間を導入する方法なども有ると思います。

■コロナ対策の広報と投資

コロナのまん延により自粛が続く折、民間経済活動も低下、これらによる困窮者には色々な補助が施されていますが、国や福岡県はいち早い経済活動の回復をめざし、PCR検査、抗原検査の陰性証明を以て活動制限の緩和を試みようとしています。

（政策審議会/感染対策本部案）

これは正しいのでしょうか。国民・市民は自由活動（陰性証明書）を手に入れるため抗原検査などを実施、この証明を以て旅行・帰省・出張・飲食を繰り返すようになります。

PCRや抗原検査は、検体採取時に感染しているかの検査で、採取時には感染潜伏期間で疑似陰性の場合もあり、このような疑似陰性もあると言う情報の報道、公表は少なく、100%陰性と勘違いして活動を繰り返すと次のまん延が心配されます。

まん延を防止・抑制するには、ワクチンを接種したら終わりではなく、その効果（免疫の有無）が大事で、TVではワクチン接種率だけを報道、国民は接種回数で安心度を得ています。

本来は、PCR・抗原検査より自分が持つ免疫力検査（中和抗体価検査）が必要で、これらを認識し自己活動を制御しなければなりません。

市は、このような情報を医療学会に問い、積極的に情報を公開、市民の安全・安心確保、将来の経済活動準備、3回目のワクチン接種へ向け準備すべきだと思います。この検査に幾分か補助（安心への投資）を行えば検査を促すことも可能で、安心・安全の下で経済活動や感染抑制は進むでしょう。

■用地の買収・取得・利用

福津市の基幹産業を考えると農業、商業、漁業などが考えられます。どの産業や事業であっても用地取得の観点から言うと、その行為には目的が伴わなければならず、さらにその目的は、市民が共有、共益となるものでなければなりません。

福津市は、海や田園、林野が身近にあり素晴らしい地理を保有する町であり、取り分け将来の漁業、観光産業となる海は素晴らしく、市民も理解し海岸の保全活動に参加します。

この海岸線のほとんどは砂浜で、岩礁地帯は渡半島や恋の浦榑崎地域にみられますが、春から秋にかけ磯遊びの場となる渡半島や旧北九州病院地先の曾根の鼻は、民間に買収され通行も出来ない状況となっています。

そのような折、津屋崎海岸通りの料亭跡地を市は買収しました。多くの市民は、この目的を良く理解できません。建物は利用できそうも無く、取り壊しにも費用が掛かると思われますが、財政の使途の優先を考えると将来財政の支えとなる海岸線地先地所の取得が優先されるべきでしょう。

また林野も豊富な福津市ではありますが、その利用度は低く、山の幸生産も可能だと思えます。ほたるの里民営化などは良い例で、敷地や周辺林野を利用した山の幸（ミカン、きのこ、栗、その他など）の生産を専門家や生産者を交え実行できれば新たな観光地となるでしょう。

その他学校建設に伴い用地の取得も必要となりますが、子供たちには自然を利用した生産の体験など、将来の目的を十分考慮し用地等の取得計画をお願いします。

3、将来の行財政へ向けて

故郷納税や産業の活発化を図り税収を増やしたいのは理解できますが、目的の無い増税は悪政の根源、まずは節約を。

公共施設の利用料金値上げを提案されていますが、料金値上げをしないと維持できなくなったなどの理由と思われそうですが、指定管理者委託施設であれば仕様書の見直しを、直営施設で利用者が少なく維持できない施設は、その存続の必要性の見直しを、市民サービスで不可欠なものは節約を、これらの見直しは市民家庭でも日常的に行っている業務で、担当課の皆様には節約から始めて頂きたいと願います。

公共施設利用料は、他市同様施設と比較し低料金であれば同等の料金を徴収する方法も一つの方法で、福間漁港におけるプレジャーボート使用料などは良い例ですが、津屋崎ヨットハーバーや特に津屋崎橋付近に係留する漁業用とは思えないボートの数は多く、管轄は福岡県かもしれませんが調査をお願いします。

津屋崎ヨットハーバー付近では、福津市民は遊漁を楽しむ場を占有され駐車も出来ない状況となっており、また津屋崎港付近においては市外からの客も多いことから、有料でも駐車場の必要性を感じています。

節約や有効利用は、利用者の立場や現場を良く理解しないとその案は生まれません。机上ではなく行動力が備わった行政を望みます。

■市独自の税徴収

税徴収、利用料金徴収には得た税の用途の目的が伴わなければなりません。

(1) 海浜利用税の新設（対象：サーファー、釣客、遊漁客、採貝客）

福津市には古くからの海水浴場、新しいものには福間漁港の海浜公園などがあります。これらの場所は年間を通じ多数の利用者が市外から訪れます。

海を観光の場として利用するに当たり、それを保全するための費用として利用料の徴収を、また保全だけではなく稚魚、稚貝の放流も行うと良いでしょう。

(2) 地先占有税の新設もしくは占有業務の義務化

地先海浜を占有して業を営んでいる方に地先占有税の徴収、もしくは地先清掃業務の義務化を。

(3) 福間漁港駐車場の有料化

福間海浜公園横の進入道路には漁港駐車場があるにもかかわらず多数の路上駐車が見られます。通行にも影響を受けますのでまずは駐車禁止措置を。

その上で、安価でも良いと思いますので駐車場の有料化を。

■支出の省力化

まずは節約ですが、市民サービスの中に省力化も出来ると思われるものがあります。

(1) 広報ふくつの製作費

月に1回配布されている広報ふくつですが、配布されても一度読んだら保存や整理が大変で破棄してしまう家庭も多いと思います。

各家庭にはPC・タブレットなどの普及が進んだ現在、市のHP上で広報誌閲覧が可能であり、配布を必要とする家庭を限定し制作部数を減らす方法もあります。

(2) 市の広報について

市のHPの中で広報掲載を特定の表示形式（FaceBook）などや教員委員会の

HP では暗号化されて無い http://形式のまま掲載しており、ページにアクセスすると“FaceBook はアカウントを誘導”や http 形式は、“保護されていないページ”と表示されるなど、そのページを開くのを躊躇されるものもあり、理解し使用できる人は良いのですが、これらは広報とはなり難く改善をお願いします。

■有能な職員の活用

職員の活用

民間で働いたことがある人は誰もが経験することですが、所属する部署の方針に沿い顧客へのサービスは勿論のこと、日常的に改善と省力化に努めます。社員には色々な人が居ますが、有能な人が溢れる福津市みたいな会社はないと思います。

会社では、各部署の方針に沿った発案と行動力が求められます。会社はそれらにより業績を伸ばし、発展していると言って良いでしょう。

部署の長は、所属する部員が規律を守りながらも自由な発想と行動を促し、部員の話をよく聞き指導することで信頼と調和を維持しなければなりません。

どの会社も市も同じですが、部署の功績により支えられています。

官庁業務は営利団体とは異なり業務性も異なりますが、まずは省力を以てこれからの市に必要なシステムを求める事であり、その優先度は市民が教えてくれます。

市民は、官庁という器の中だけで考えるのではなく、しがらみを捨て、福津市の空の上からこの地を眺め、諸案の検討と実行をお願いしたい、と望むものがあります。

以上

R3 年 9 月 16 日 福津市まちづくり研究会